令和2年度企画展

最新出土考古資料展

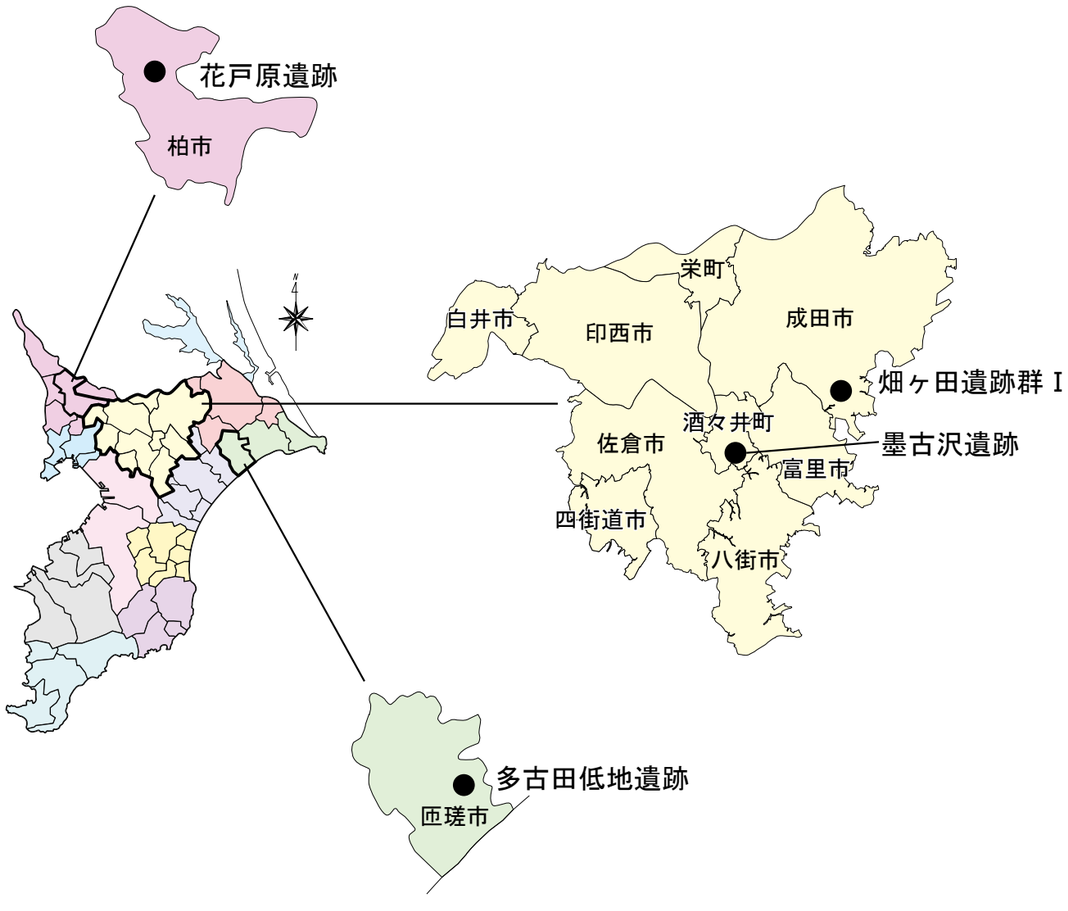
匝瑳市
多古田低地遺跡 出土
縄文時代 釣手土器

匝瑳市
多古田低地遺跡 出土
縄文時代 深鉢

ごあいさつ

「最新出土考古資料展」は、今年で23回目の開催となります。今回紹介させていただく遺跡は印旛地域の酒々井町墨古沢遺跡と成田市畑ヶ田遺跡群Iのほか、印旛郡外の匝瑳市多古田低地遺跡と柏市花戸原遺跡です。異なる時代と地域の遺跡を同時に紹介することができる絶好の機会となりました。本展示が多くの方々にとって、文化財保護と千葉の歴史文化に関心を深めていただける普及事業となることを、心から願っております。それぞれの時代の遺跡と出土品をご覧ください。

最後に、遺物借用や原稿執筆などにご指導・ご協力をいただきました酒々井町教育委員会生涯学習課、成田市教育委員会生涯学習課、匝瑳市教育委員会生涯学習課、柏市教育委員会文化課、ならびに多くの関係諸氏・諸機関に、心より御礼申し上げます。



展示遺跡の位置

歴史年表

※太字は展示遺跡

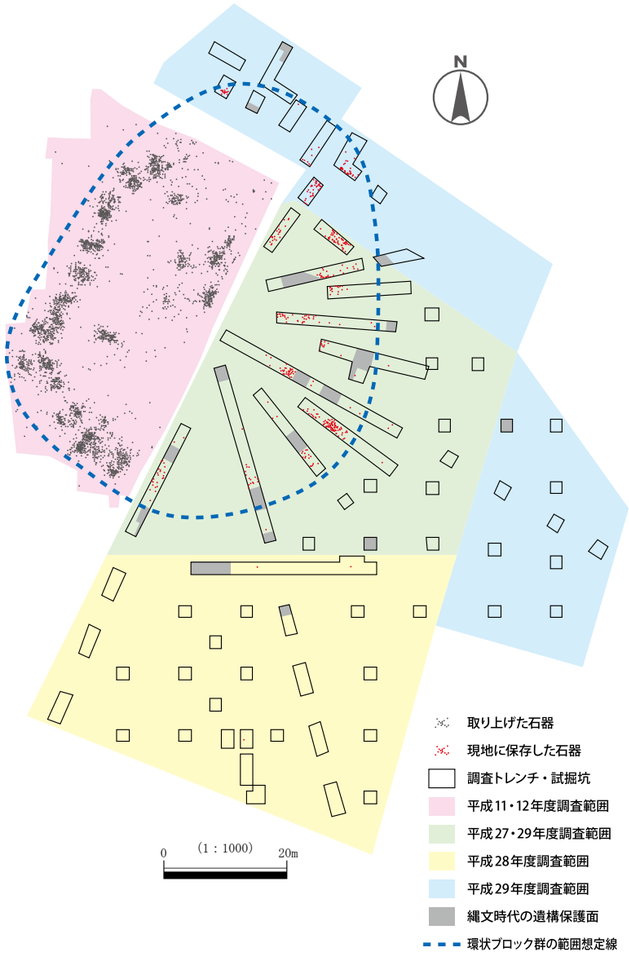
年代	時代		展示遺跡と印旛郡内の主な遺跡	全国の主な遺跡	主なできごと
3万8千年前					大陸から現生人類が日本列島に渡り、居住を始める
3万4千年前			**墨古沢遺跡（酒々井町）** 瀧水寺裏遺跡（印西市）		石刃技法が広がる ナイフ形石器が発達する 姶良・丹沢火山灰の降灰
3万年前	後期旧石器時代		出口・鐘塚遺跡（四街道市）	岩宿遺跡（群馬県）	槍先形尖頭器が発達する 氷河期が終わり気候が温暖化する
2万年前			東内野遺跡（富里市）		
			南大溜袋遺跡（富里市）		細石器が使われる
1万5千年前	縄文時代	草創期			
1万2千年前				鳥浜貝塚（福井県）	土器の登場・弓矢の発明
7千年前		早期	間野台貝塚（佐倉市） 上座貝塚（佐倉市）		竪穴住居が作られる
5千年前		前期	木戸先遺跡（四街道市） 和良比遺跡（四街道市）	三内丸山遺跡（青森県）	気候が温暖化し、海水面が上昇
4千年前		中期	生谷松山遺跡（佐倉市） 長田雉子ヶ原遺跡（成田市）	加曽利貝塚（千葉県）	
3千年前		後期	宮内井戸作遺跡（佐倉市） 井野長割遺跡（佐倉市） **多古田低地遺跡（匝瑳市）**	亀ヶ岡遺跡（青森県）	土偶・石棒などが多く作られる
2千年前		晩期	荒海貝塚（成田市）		
B.C.300	弥生時代	前期		土井ヶ浜遺跡（山口県） 菜畑遺跡（佐賀県）	北九州に稲作が伝わる 再葬墓が作られるようになる
紀元前		中期	天神前遺跡（佐倉市） 大崎台遺跡（佐倉市）	唐古・鍵遺跡（奈良県）	環濠集落の形成 方形周溝墓が作られるようになる
紀元後					倭国の内乱つづく
A.D.300		後期	江原台遺跡（佐倉市） 飯郷作遺跡（佐倉市）	登呂遺跡（静岡県） 池上曽根遺跡（大阪府）	239　卑弥呼が魏に使いを送る
400	古墳時代	前期	復山谷遺跡（白井市） 向新田遺跡（印西市）		古墳の築造が始まる
500		中期	鶴塚古墳（印西市） **畑ヶ田遺跡群Ⅰ（成田市）** 吉高浅間古墳（印西市）	大仙陵古墳（大阪府） 江田船山古墳（熊本県）	巨大前方後円墳の築造 千葉県内で須恵器が使われる
600		後期	道作古墳群（印西市） 宮前古墳（八街市）		埴輪を盛んに作り古墳に並べる
	飛鳥時代		竜角寺古墳群（栄町） 下方内野南遺跡（成田市）	岩屋古墳（千葉県）	645　大化の改新
700	奈良時代		**花戸原遺跡（柏市）** 高岡遺跡群（佐倉市）	下総国分寺（千葉県）	710　平城京に都を移す 794　平安京に都を移す
800	平安時代		大袋腰巻遺跡（成田市） 川栗館跡（成田市）		
900			野毛平遺跡群（成田市） 池ノ下遺跡（印西市）		935　平将門の乱

墨古沢遺跡 ―3万4千年前の日本最大級の環状ブロック群―

日本列島の後期旧石器時代前半期を特徴づける約３万４千年前の「環状ブロック群」で、その規模は南北70m×東西60mの範囲におよび、日本最大級の規模を誇ります。環状ブロック群は、石器製作跡であるブロックが多数集まり、大きく円を描いて分布する日本独特の大型集落で、「陥し穴」「局部磨製石斧」と共に日本旧石器時代の三大特徴と言えます。遺跡周辺の湧水に集まる獲物となる動物を目的に集まった人々が営み、台形様石器、ナイフ形石器、削器、楔形石器、石錐、局部磨製石斧調整剥片、敲石など、狩猟具を含む活発な石器製作を行った集落跡です。また石器の使用石材には群馬県武尊山産のガラス質黒色安山岩が７割以上を占め、また信州、神津島、高原山産の黒曜石や、主に北関東からもたらされたと考えられる玉髄、トロトロ石、流紋岩なども見られます。この遺跡を営んだ人々が広域を移動し、更に遠方の集団とも交流を行っていたことが分かります。さらに自然科学分析により遺跡周辺の古環境情報も豊富に得られ、当時の人々の生活風景を推定することができました。

墨古沢遺跡は人々の移動や交流、生業活動や集団関係など、当時の人類社会の在り方を知る上で重要な遺跡として令和元年10月に国史跡に指定されました。

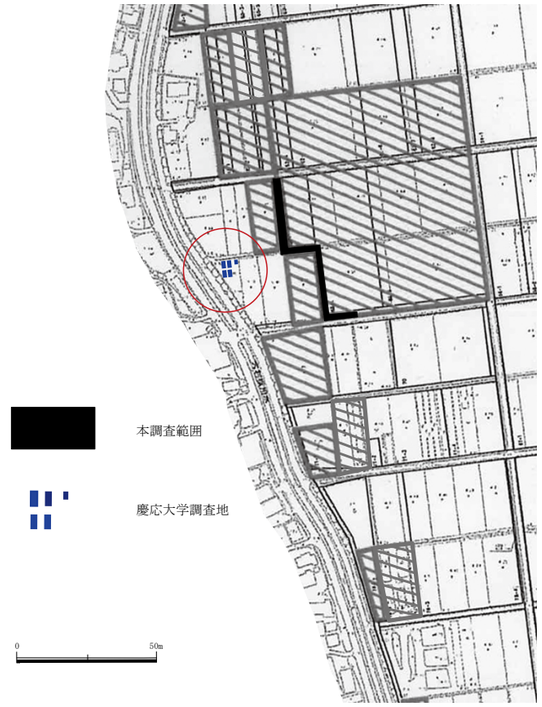
1・2：ナイフ形石器、3〜9：台形様石器、10：石錐[1・2・4・7〜9：ガラス質黒色安山岩、3・5・10玉髄(メノウ含む)、6：トロトロ石]



墨古沢遺跡　出土石器（1/4）と石器分布図（1/1000）

多古田低地遺跡 ―縄文時代の小さな港―

多古田低地遺跡は、匝瑳市に所在し、九十九里浜の砂堤帯で形成された旧椿海の汀線付近、標高５mに所在する縄文時代の泥炭層遺跡です。遺跡の発見は古く、昭和37年の土地改良工事によって偶然発見されました。多量の縄文土器のほかに丸木舟や漆を使用した杓子などが出土し、慶応大学によって緊急調査が実施されています。また、現代と変わらない漆工芸技術の高さは、全国的にも注目されました。今回の調査は、圃場整備事業に伴って、その慶応大学の調査地点から東に約120mの近隣を対象に本調査を行ないました。調査の結果、遺跡はこれまで縄文時代後期の安行式期が主体と考えられていましたが、加曽利Ｂ式期まで遡ることが分かりました。また、少量ですが早・前期の土器も出土しています。さらに東北地方を主体とする三十稲場式がみられることからも本遺跡は時間幅や他の地域との関連を考慮しなければならない遺跡であることが分かってきました。また、多量の遺物が出土しながらも、住居等の遺構が全く検出していないことは、多古田低地遺跡が、他の通常の遺跡とは性格が異なっていることを示しています。周辺の縄文時代の遺跡の分布と丸木舟出土地を比較すると、舟が出土する近隣の台地には、縄文時代の集落の痕跡がうかがえます。このことから、低地には丸木舟を繋留し、住居等は台地上に位置していたことが推定されます。しかしながら、舟の周辺には通常の煮炊きに使用した土器の出土も認められます。このようなあり方は、今後の調査成果にもよりますが、本遺跡が、現在も漁場近くの汀線付近に所在する作業場兼簡易な宿泊所である「番屋」に似た性格をもつ遺跡であったことが推察されます。



丸木舟出土状況（２隻）

丸木舟と櫂の出土状況

畑ヶ田遺跡群Ⅰ ―根木名川最上流部の古墳時代中期集落―

畑ヶ田遺跡群Ⅰは、畑ヶ田花山遺跡と同じ台地上に立地する同一集落です。集落の出現は弥生時代後期、終焉は平安時代と比較的長い期間集落が営まれていました。ピークは5世紀後葉～6世紀初頭、7世紀末葉～8世紀初頭の前後2時期です。

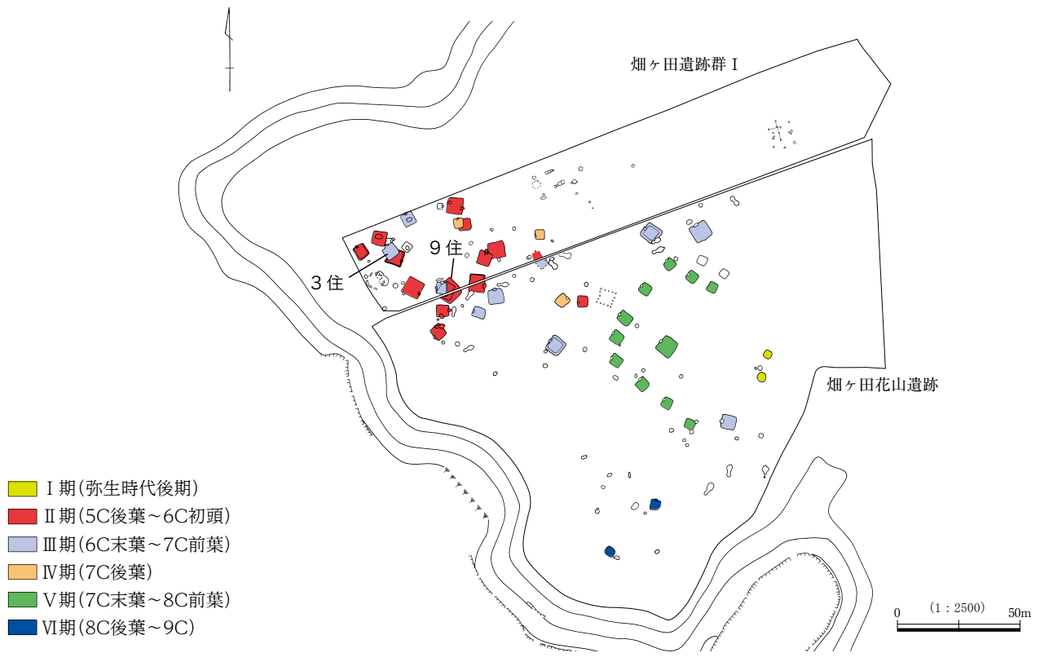
最初のピーク時には台地北西部に住居跡が弧状に集まり、一つの集団を形成していました。それが7世紀末葉になると、台地中央に建物群が進出し、大型の竪穴住居跡を中心に、その外側に小型の住居跡が「コ」の字状に配列されます。こうした建物配置は官衙などの公的施設に特徴的な配列で、本遺跡が一部役所的機能を担っていた可能性もありえます。

出土遺物では、古墳時代中期の鉄斧と後期の住居跡から出土した鏡が注目されます。鉄斧は袋状を呈する小型品です。印旛地域で5例目、集落では2例目となる貴重な鉄器です。

鏡は、古墳時代前期後葉～中期前葉に作られたものが、後の時代の住居跡から出土しました。同じ住居からは桃の種や土製の勾玉も出土しているので、廃棄されたのではなく鏡もそれらと一緒に、祭祀に用いられた可能性があります。

銅鏡（3号住居跡）

鉄斧（9号住居跡）



畑ヶ田花山地区の遺構配置図

花戸原遺跡 ―手賀沼周辺における奈良・平安時代の拠点集落―

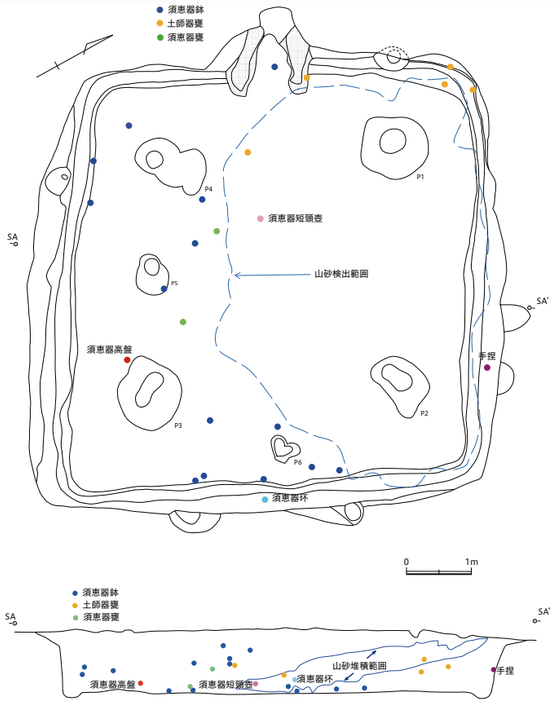
花戸原遺跡は縄文時代前期、古墳時代中期、奈良・平安時代に集落が営まれています。集落は奈良・平安時代で、隣接する中馬場遺跡と一体となり、手賀沼周辺におけるこの時代の拠点集落を形成しています。

花戸原遺跡第12次調査3号住居跡は遺跡のやや東に位置し、規模は一辺約7m、深さ1mを超える大型の住居跡です。

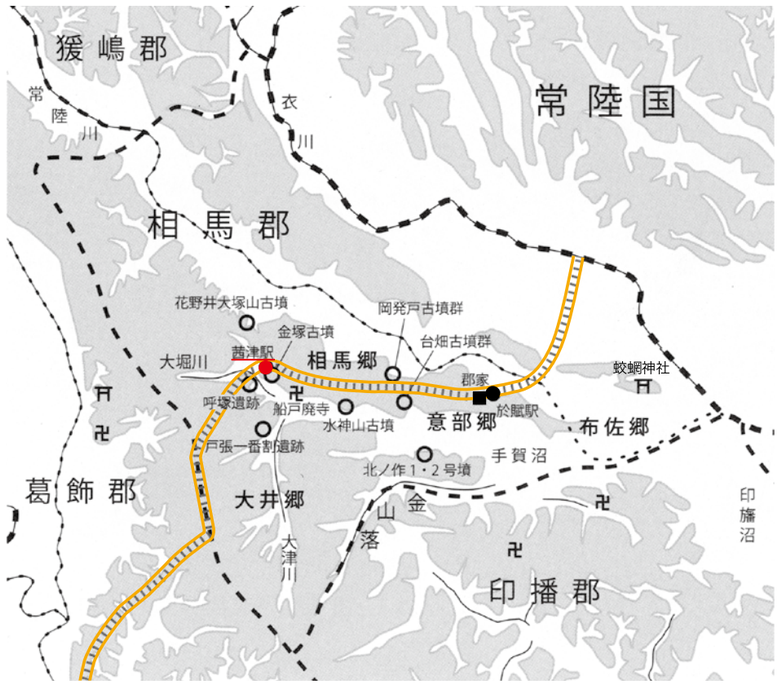
時期は8世紀後半と考えられ、住居廃絶時に大量の山砂が堆積しています。

出土遺物は須恵器坏・鉢・高盤などがあり、特に地鎮で使われた可能性がある新治窯（筑波山麓）産の短頸壺（薬壺）が出土しています。口径8.6㎝、器高6.8㎝と小ぶりであり、焼成前に底部穿孔がされ、内面の一部に有機物が付着しています。他の出土例には薬壺の内容物に有機物、銭貨等がありますが、特に銭貨は地の神に払う地代と考えられています。

住居内に大量の山砂が検出されたことについても地鎮に関係があるのかもしれません。当遺跡は下総国府から常陸国府に至る駅路が通る立地であることが、遺跡自体の、または3号住居跡の性格を検討していく上で、重要な要素になると考えられます。



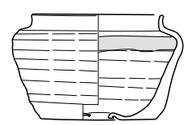
3号住居跡平面・断面・遺物出土状況図



下総国府から常陸国府に至る駅路図（本遺跡は茜津駅家推定地周辺）

※辻史郎『市川市史編さん事業調査報告書下総国戸籍遺跡編』

須恵器坏



須恵器短頸壺（薬壺）

0 （1：4） 10cm

おわりに

今回は匝瑳市や柏市といった印旛郡以外の地域の遺跡も取り上げましたが、各地域で異なる遺構や遺物の特徴を楽しんで頂けましたでしょうか。

国史跡指定を記念してご紹介した墨古沢遺跡では、石器づくりの跡やたき火の跡等の生活痕跡とともに多数の石器が見つかり、現在よりも寒冷な３万４千年前の生活の様子がわかってきました。特に、石器に使用された石材には遠く長野県から運ばれた黒曜石も見られることから、当時の人々の生活・交流範囲の広さがわかります。どうして遠方の黒曜石にこだわったのでしょうか？独特の光沢に魅入られたのでしょうか、はたまた石器製作時の利便性が故なのか。遺跡や遺物は私たちに様々なことを想起させてくれます。多古田低地遺跡からは丸木舟や櫂（かい）が出土していますが、千葉県は全国的に見ても丸木舟の出土量が最も多く、海進（かいしん）・海退（かいたい）などによって沼がたくさん形成され、漁労が盛んに行われていたことがわかります。そして、畑ヶ田遺跡群Ｉから出土した鉄斧からは集落の先進性が窺え、また、花戸原遺跡の遺構からはかつて交通の要衝であったことが読み取れます。

このように、印旛郡以外の地域を含めて遺物や遺構を見てみると、遺跡ごとにそれぞれ異なった特徴がみられました。印旛郡内にも、今回は紹介しきれなかった様々な遺跡があります。みなさんも興味がありましたら、最近の発掘事例について調べてみてください。そこから、印旛地域の古代の魅力を感じていただければ幸いです。

◇交通機関◇東関東自動車道佐倉ICから県道65号線経由で10分／JR佐倉駅からバス約7分、ちばグリーンバス「石川入口」下車

公益財団法人
印旛郡市文化財センター
千葉県佐倉市春路1-1-4 TEL 043-484-0126 http://www.inba.or.jp/

QRコードを読み込んで
スマートフォンサイトへ
今すぐアクセス！